家庭学習のスタンダード
（福島市版）

福島市教育委員会

は　じ　め　に

子どもたちの学力の向上は，本市にとって喫緊の課題の一つでありますが，各小・中学校における授業改善を柱とした取り組みの継続により，着実に成果を上げつつあるところであります。このことは，全国学力・学習状況調査をはじめとする各種学力調査の結果にも表れているところです。

全ての子どもたちがその持てる力を発揮して自らの未来を切り拓き，「夢」や「希望」を実現していくことは，私たち教育に携わる者にとって共通の願いです。子どもたち一人ひとりに「確かな学力」を育成することは，学校に課せられた最大の責務であり，そのための取り組みには「これでよい」という終わりはありません。

家庭学習の充実については，これまでも各校及び各中学校区を単位として取り組まれておりましたが，このたび，本市としての家庭学習の指導の指針となる「家庭学習のスタンダード」を作成いたしました。各校及び各中学校区において，このスタンダードを活用したこれまで以上に組織的な取り組みが充実することを期待しております。

家庭学習の指導においてもその第一義的な責任は学校にあると捉え，この「家庭学習のスタンダード」は教員向けとして作成いたしましたが，子どもたちの学習習慣の確立のためには，家庭との連携が極めて重要であることから，保護者の皆様等にも御覧いただけるよう福島市小・中・特別支援学校ポータルサイトで公開をしております。各校においては，その趣旨を理解し保護者会等で家庭学習について共通理解を図るための資料としても活用いただきたいと思います。

平成２９年９月

福島市教育委員会

目　　次

Ⅰ　なぜ家庭学習が必要なの？ ………… 1
Ⅱ　家庭学習で育てる「資質・能力」 ………… 2
Ⅲ　家庭学習５（ファイブ） ………… 2
１　家庭学習は系統的・計画的指導により資質能力を育むものと共通理解する …３
２　家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する …………３
３　家庭学習は「宿題＋自主学習」である …………４
４　家庭学習は「量」と「質」を重視する …………５
５　家庭学習は学校と家庭とが連携してこそ効果が上がる …………６
Ⅳ　家庭学習のめやす ………… 7
Ⅴ　効果的な実践例 ………… １１
１　家庭学習のマネジメントサイクル化の例 …………１１
２　授業と家庭学習のサイクル化の例 …………１３
３　ドリル学習に主体的に取り組ませる工夫の例 …………１５
４　自主学習への取り組みを促す工夫の例 …………１６
５　活用型の自主学習（自主学習２）の例 …………１９

Ⅰ　なぜ家庭学習が必要なの？

●「生涯を通じて自己の向上に努める」基盤づくり

「なぜ，家庭学習が必要なのでしょう？」

本市の教育振興基本計画では，「人間尊重の精神に基づき，広い視野をもち，生涯を通じて自己の向上に努める」ことを基本理念の一つとして挙げています。これまでも，私たちは人生の様々なステージで学び続け，その成果を自分の仕事や生活，社会に反映させることにより，自分の人生や社会を豊かにしてきました。現在の子どもたちが生きていくこれからの社会は，人工知能などの発達により情報化やグローバル化といった社会的変化が，私たちの予測を超えて進んでいくといわれています。英国の研究者の予測によれば，今後１０～２０年程度で，米国の４７％の仕事が自動化される可能性が高いとされています。また，米国の研究者は，２０１１年に米国の小学校に入学した子どもたちの６５％は，大学卒業後，今は存在していない職業に就くと予測しています。この予測は，日本も無縁ではありません。職業の在り方や働き方，社会の在り方そのものが様変わりしていく中で，現在の子どもたちが自らの未来を切り拓き，生涯を通して社会で活躍し，豊かな人生を歩み続けていくためには，社会に出た後も学び続け，これまで以上に，新たに必要とされる知識や技術を身に付けていくことが求められます。学校教育では，子どもたちが「生涯を通じて自己の向上に努める」基盤を作ることが重要であり，それは，学校における学習のみでなく，家庭学習を通して培われるものです。

●「自らの学びをマネジメントする力」と学力の向上

もちろん，家庭学習には，「学力の向上」という側面もあります。小学校の低学年から中学年，高学年，中学生と学年が上がるにつれて学習内容が多くなり，学校での学習だけでは全てを理解することが難しくなってきます。学校での学習→家庭での復習・予習→学校での学習というサイクルを確立することにより，学習内容が確実に定着し，学力の向上が期待できます。授業で学習したことをその日のうちに家庭で繰り返し学習することにより，記憶が確かになります。完全に忘れてしまったことを思い出すのはなかなか大変ですが，記憶が鮮明なうちに繰り返し学習することにより，仮に忘れてしまったことも簡単に思い出すことができます。さらに，教科書に目を通す程度でも翌日の授業の内容を予習しておけば，学習の見通しをもって授業に臨むことができます。予習の段階で分からないことが明らかになっていれば，「授業で疑問を解決しよう」と意欲的に授業に取り組むこともできます。このように，学校での授業と家庭学習が連動することで，「分かった」「できた」という体験が増え，学習が楽しくなります。そのことにより，子どもたちは主体的に学習に取り組むようになり，**自らの学びをマネジメント（管理）する力**が育ちます。これは，まさに生涯を通じて学び続ける態度の基盤となるものです。

とは言え，家庭学習を「めんどうくさい」「やりたくない」と感じる子どもが多いのも事実です。単に「家庭学習は大切だからやりましょう」では，子どもたちに生涯の学びにつながる態度を育てることは困難です。小・中学校９年間を見通し，学校と家庭とが手を携え合い，子どもの発達の段階に応じて系統的，組織的に，子どもたちが自分のスタイルに応じた学び方を身につけることができるよう，家庭学習について「指導」していくことが極めて重要です。

Ⅱ　家庭学習で育てる「資質・能力」

マネジメントとは？

評価・分析・選択・改善・統合・計画・調整・組織化などを総合した概念のことです。

Ⅲ　家庭学習５（ファイブ）

1　家庭学習は系統的・計画的な指導により自らの学びをマネジメントする資質・能力を育むものと共通理解する
2　家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する
3　家庭学習は「宿題＋自主学習」である
4　家庭学習は「量」と「質」を重視する
5　家庭学習は学校と家庭とが連携してこそ効果が上がる

1　家庭学習は系統的・計画的な指導により自らの学びをマネジメントする資質・能力を育むものと共通理解する

各学校では，様々な工夫を凝らして家庭学習に取り組んでいます。しかし，学年や学級によって取組に差があったり，学年が変わると指導方針も変わってしまったりすることもあるようです。

家庭学習は，子どもたちが「生涯を通じて自己の向上に努める」ための基盤となる**資質・能力を培うための系統的・計画的な指導の機会**であるということを，**学校全体で確認**し合いましょう。

ＰＴＡ全体会等の保護者が集まる機会や学校だより等を通して，家庭学習に対する基本的な考え方を保護者や地域の方にも知らせ，協力を呼びかけることも大切です。

2　家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する

小学校

学年や発達の段階に応じた家庭学習の在り方については，「家庭学習の手引き」として示している学校が多い反面，「学年が上がったのに，宿題の量が去年よりも減った。」「今年の先生は，自主学習だけで宿題が出ない。」など，家庭学習の出し方，内容や量について様々な声を耳にすることがあります。

中学校

多くの学校で「学習の手引き」が作成され，入学後に時間をとって各教科の家庭学習の仕方について指導が行われています。しかし，指導内容が学年に任されていたり，その後は「学習の手引き」を活用する機会がほとんどなかったりする例も見られるようです。

また，日々の宿題は各教科の担当の先生がそれぞれに出すことが多く，日によって宿題の量が極端に多かったり少なかったりすることもあるようです。

学校としての基本的な方針や系統的な指導のめやすが必要

○　学年の始めに「家庭学習の手引き」の内容を全教員で確認

○「家庭学習強化委員会」を設置したり，現職教育や職員打合せ等の機会を活用したりして，定期的に家庭学習の在り方について協議する機会を設け，手引きや方針に基づいて学級や教科で取組にばらつきがないか，手引きや方針が子どもの実態を踏まえたものになっているかなどを確認

○　特に中学校では，日々の宿題の出し方，内容や量などについても教員間で調整を図ることが必要。

- 小黒板に各教科の宿題を書き出しておき，他教科でどのぐらいの宿題が出されているのかを互いに「見える」ようにする。
- 提出日までに一定の期間を設定する。

３　家庭学習は「宿題＋自主学習」である

学校として**家庭学習の指導を行うための手立て**として，特に小学校では，**適切な量の宿題**を出しましょう。
宿題に加え，**「自らの学びをマネジメントする力」を育てるために**，**発達の段階に応じて自主学習**にも取り組ませましょう。

家　庭　学　習

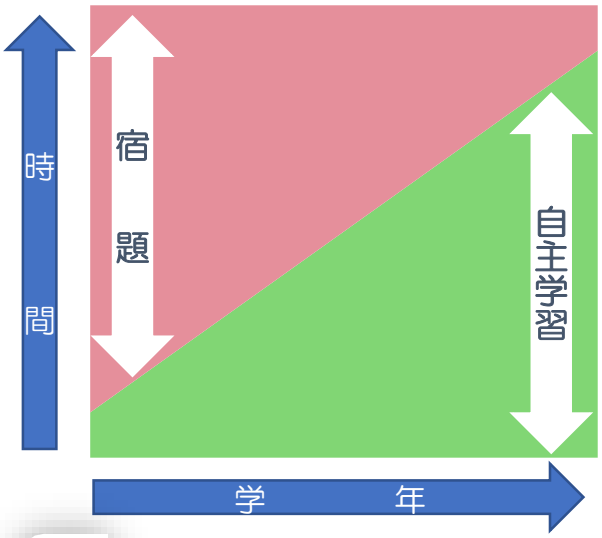
宿　　題
- 学校での学習の補充的な内容
- 復習的な内容
- 毎日繰り返すドリル的な学習
- 提出まで一定の期間を設定した課題

＋

自主学習１
- 授業の復習，予習
- 自主的な問題演習
- 前の学年までの復習

＋

自主学習２
- 自分の興味・関心に基づいて取り組む課題
- 授業で学習したことの発展的な課題
- 図書や新聞等を活用した調べ学習



自主学習は，「自主学習１」と「自主学習２」に分けて考えます。
小学校では，宿題中心の家庭学習から始め，少しずつ自主学習にも取り組ませるようにします。自主学習の導入段階では，取り組ませたい内容をまず宿題として出し，ノートのまとめ方などについて丁寧に指導をしていくことが重要です。
中学校では，小学校での指導の上に立ち，自ら課題意識や必要感をもって家庭学習に取り組む態度を育成していきます。そのため，必要に応じて宿題も出しますが，授業の復習や予習を中心とした「自主学習１」や，各種検定の準備や高校入試対策等，自己の目標実現のために行う「自主学習２」への取り組みを重視します。

家庭学習のやる気を支える**「点検・評価」**の工夫

家庭学習は，「自らの学びをマネジメントする力」を育てるための「指導」の機会ですから，**適切な点検・評価は必須**です。特に小学校では，子どもたちの**頑張りを認め・ほめる**ことで学習意欲が向上し，家庭学習の習慣化が図られていきます。
また，点検・評価によって子どもたちに**学習内容がどの程度定着しているかを把握**し，授業や補充指導に生かしていくことが重要です。

しっかり点検 → 頑張りを認める → 必要な支援をする → 学習意欲が向上 → 継続の原動力 → 家庭学習の習慣化

４　家庭学習は「量」と「質」を重視する

各学校で作成している「家庭学習の手引き」には，小学校では「学年×１０分程度」，中学校では「学年＋１時間程度」などのように，学年や発達の段階に応じた時間のめやすが示されています。
時間のめやすを示すことは，子どもたちが具体的な見通しをもって家庭学習に取り組むために非常に重要ですが，その時間で「何を」「どのように」学習するのかをきちんと指導することも重要です。

認知心理学の知見から，長時間続けて学習するよりも，適度な休憩を取りながら分散して学習した方が効率的であるといわれます。
小学校では１５分程度を１セット，中学校では２０分から３０分を１セットとし，そのセットで何を学習するのかを明確にしながら家庭学習を組み立てていくことで，量から時間のめやすを設定することができます。

宿　　題 → 自主学習１ → 自主学習２

家庭学習の質を高めるために　＝２つのサイクル化＝

授業と家庭学習のサイクル化

これならできそうだ！

授　業 → 家庭学習 → 授　業

授業の内容が分かった！

・本時の内容を再度確認し定着を図る宿題を出す
・次時の授業内容に必要な既習事項・関連事項を調べる宿題を出す

・宿題の内容を確認するための小テストを行う
・宿題で取り組んだ内容を意図的に取り上げながら，授業を展開する

家庭学習のマネジメント・サイクル化

計　画 (Plan) → 実　践 (Do) → 確　認 (Check) → 実　践 (Action)

・１週間の授業や部活動等の予定を考え，家庭学習で取り組む内容の計画を立てる。

今週は部活動の大会があるから・・・

・金曜日に１週間の取り組みを振り返る。

・週末に足りなかった部分を実践する。

5　家庭学習は学校と家庭とが連携してこそ効果が上がる

家庭学習は，先に示した資質・能力を育てるための指導の機会ですが，学習の場は学校を離れた家庭になります。
そのため，家庭学習の指導の効果を上げるには，保護者や家族の理解と協力を得ることが重要になってきます。

家庭学習の指導においてもその**第一義的な責任は学校にあるという認識**をもって取り組むことが必要です。

家庭学習の指導における学校の役割と家庭の役割

学　校

- 家庭学習の方針
- 授業と家庭学習のサイクル化
- 家庭学習の方法の指導
- 家庭学習の計画づくりの指導

家　庭

- 基本的な生活習慣の定着
  （早寝，早起き，食事）
- 学習環境の整備
- 家庭学習への励まし

家庭学習の手引き

学校と家庭が共通理解を図るためのツールとして「家庭学習の手引き」を活用しましょう。

御家族へのお願い　～学習習慣の確立のために～

1　基本的な生活リズムを整えましょう

○　早寝，早起き，朝ご飯の習慣を

2　学習の環境を整えましょう

○　小学生　決まった時刻に決まった場所で
　　中学生　時間を上手に使い，自分に合った場所で

○　スマホなどの利用はルールを決めて

3　お子さんを信じて支えてあげましょう

○　温かな見守りと励ましを

Ⅳ　家庭学習のめやす

小学校１・２年　家庭学習入門期

家庭でも学習する習慣を身に付ける

○　決まった時間に，家族の目の届く場所で，テレビを消して学習する。
○　机の上など学習をする場所を整理し，学習に必要なものだけを出す。
○　まずは宿題から取り組む。

宿　　題 → 自主学習２　　１５分×１～２セット＝１５～３０分

- 宿題：
  - 音読
  - ひらがなや漢字の練習
  - 計算練習　など
- 自主学習２：
  - 日記，作文など

小学校３・４年　家庭学習充実期Ⅰ

宿題に加え自主学習にチャレンジする

○　決まった時間に，家族の目の届く場所で，１セットごとに集中して学習する。
○　今日の学習内容を考え，学習に必要なものをそろえる。
○　まずは宿題から取り組み，自主学習にもチャレンジする。

宿　題 → 宿　題（自主学習１） → 自主学習１ → 自主学習２　　１５分×２～４セット＝３０～６０分

- 宿題：
  - 音読
  - ひらがなや漢字の練習
  - 計算練習　など
- 自主学習１：
  - 授業の復習，（予習）
- 自主学習２：
  - 言葉の意味調べ
  - 日記・作文
  - 調べ学習など

小学校５・６年　家庭学習充実期Ⅱ

自分で予定を立て工夫して学習に取り組む

○　始める時間を決め，家族の目の届く場所で，１セットごと集中して学習する。
○　何を学習するか計画を立て，必要な資料などを準備する。
○　まずは宿題から取り組み，自主学習１にも取り組む。

宿題 → 宿題 → 自主学習１ → 自主学習１ → 自主学習２

１５分×４セット以上＝６０分以上

中学校１・２年　実力養成期

学習内容・量などを調整し，計画的・継続的に学習に取り組む

○　自分の生活を見通して学習プランを立て，集中しやすい時間帯に集中しやすい場所で学習する。
○　何を学習しなければならないのかを考え，教科の組み合わせを工夫して学習する。
○　自主学習１（復習・予習）を中心に学習する。

宿　　題	授業における学習内容の習熟，補充的な内容
自主学習１	授業の復習，予習，問題集，１・２年の学習内容の補充
自主学習２	自己の目標実現のための学習(各種検定の準備，高校入試対策等)

パターンA　２０分×５セット＝１００分

国語（宿題・自学１）→ 数学（宿題・自学１）→ 英語（宿題・自学１）→ 自主学習２ → 自主学習２

３教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習、各種検定の準備等を２セット取り組むパターンです。

パターンB　２０分×６セット＝１２０分

国語（宿題・自学１）→ 社会（宿題・自学１）→ 数学（宿題・自学１）→ 理科（宿題・自学１）→ 英語（宿題・自学１）→ 自主学習２

５教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習，各種検定の準備等を１セット取り組むパターンです。

パターンC　２０分×６セット＝１２０分

国語（宿題・自学１）→ 数学（宿題・自学１）→ 英語（宿題・自学１）→ 自主学習２ → 自主学習２ → 自主学習２

３教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習，各種検定の準備等を３セット取り組むパターンです。

中学校では，小学校での指導の上に立ち，「自ら課題意識や必要感をもって家庭学習に取り組む態度」を育成していきます。

部活動なども始まり，帰宅時刻が小学校の時よりも遅くなるため，連続して学習時間を確保するのが難しい場合もあります。自分の生活を見つめ直し，「すき間時間」をうまく活用しながら，学習時間を確保していくことができるよう指導していくことが大切です。そうした指導を通して，自分に合った「学習スタイル」を確立していくことが，本市の目指す「自らの学びをマネジメントする力」の育成につながります。

中学校でも必要に応じて宿題が出されますが，授業の復習や予習を中心とした「自主学習１」や，各種検定の準備や高校入試対策等，自己の目標実現のために行う「自主学習２」への取り組みをより一層重視します。自主学習１では，実態にもよりますが，復習だけでなく予習にも取り組めるように指導することが大切です。

中学校３年　完成期

進路実現に向け、自律的に学習に取り組む

○　これまでの経験を生かし，自分なりの学習スタイル（時間，場所，取り組み方など）を確立する。
○　授業の復習・予習に加えて，自己の目標実現のための学習（自主学習２）にも計画的に取り組む。

パターンA　２０分×６セット＝１２０分

国語（宿題・自学１）→社会（宿題・自学１）→数学（宿題・自学１）→理科（宿題・自学１）→英語（宿題・自学１）→自主学習２

１・２年時と同様に１セットを２０分とし，５教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習，各種検定の準備等を１セット取り組むパターンです。

パターンB　３０分×５セット＝１５０分

国語（宿題・自学１）→社会（宿題・自学１）→数学（宿題・自学１）→理科（宿題・自学１）→英語（宿題・自学１）

１セットを３０分とし，５教科の学習を中心に取り組むパターンです。

パターンC　３０分×６セット＝１８０分

国語（宿題・自学１）→社会（宿題・自学１）→数学（宿題・自学１）→理科（宿題・自学１）→英語（宿題・自学１）→自主学習２

パターンAの１セットを３０分にしたものです。５教科の学習を中心に取り組むパターンです。

パターンD　３０分×６セット＝１８０分

国語（宿題・自学１）→数学（宿題・自学１）→英語（宿題・自学１）→自主学習２→自主学習２→自主学習２

１セットを３０分とし，３教科の学習＋高校入試対策等を３セット取り組むパターンです。

中学校３年は，「人生の節目の時期」です。保護者や家族と連携しながら，将来を見据えた目標を明確に持たせることが，学習の「やる気」にもつながります。

正確な進路情報を与えるとともに，教員や家族が信じ，支えることで不安を軽減し，安定した気持ちで学習に取り組むことができるようにすることも重要です。